

欧州における国際航空ネットワークの動向に関する調査研究 概要

1. 調査研究の背景と目的

近年、国際航空ネットワークは、オープンスカイ協定の進展や低費用航空会社（LCC : Low Cost Carriers）の事業拡大、空港の民営化や大都市圏空港の整備等を背景に急速に拡大し、国際線旅客数も増加傾向である。日本においても、2000年代に入って、オープンスカイの推進、LCC市場の成長、空港経営改革の推進等、航空・空港を巡る状況が大きく変化してきている。なかでも、欧州各国は、日本より先行して航空自由化や空港民営化等の取組を実施してきており、LCC市場の成長も進んでいると考えられる。

そこで、本調査研究では、今後の我が国の国際航空ネットワークの検討に寄与することを目的に、欧州における国際航空ネットワークに関して、統計データに基づく欧州の国際線の動向と英国でのヒアリング調査に基づく空港運営会社等の取組を把握した。

2. 調査研究の内容

- ① 英国、ドイツ、スペイン、フランス、イタリアを対象に、就航地域や方面、航空会社の類型や国籍等の視点から統計データの集計・比較を行い、国際線便数の動向を把握した。
- ② 英国のガトウィック空港、サウスエンド空港、マンチェスター空港、リバプール空港、バーミンガム空港を対象に、空港運営会社等の取組について現地ヒアリング調査を実施した。

3. 調査研究の総括

- ① 欧州における国際線の動向
 - ・欧州比較国の国際線便数は、1996年以降、域内外や方面を問わず概ね増加傾向にある。
 - ・国際線フルサービス航空会社（FSA : Full Service Airline）の便数は、1996年以降、欧州比較国の中でドイツが最も多く、次いで英国、フランスの順となっており、その傾向に変動がない。
 - ・国際線LCCの便数は、英国では1996年以降、他の欧州比較国に先行して増加し、他の欧州比較国では、2000年代に入ってから、増加している。英国やドイツでは、2008年以降、国際線LCCの便数が横ばいで推移し、2013年以降に再び増加に転じている。
 - ・最大空港都市圏の空港における国際線便数は、堅調に増加している一方、その他の空港ではより顕著な増加傾向にある。

② 英国における空港運営会社等の取組

- 空港運営会社は、事業環境から得られる強みや他空港との差別化を意識しながら、航空会社に対して、就航路線の需要予測や販売促進の支援等、積極的な提案を実施している。
- 地方自治体と空港運営会社の 2 者が協力しながら企業誘致や航空会社への就航誘致を実施している。
- 空港運営会社は、航空会社の勤務経験者や大学からのインターシップ等を受け入れ、データ分析及び就航誘致等に関わる人材獲得や人材育成に取り組んでいる。
- 空港運営会社は、安定的な国際航空ネットワークを維持・拡大するため、空港機能の強化や、特定の航空会社と路線維持の長期契約、特定の航空会社に偏らない多様な航空会社への誘致等、様々な取組を行っている。
- 空港運営会社が航空会社と個別に長期契約を結ぶと、空港使用料や着陸料等の割引情報が一切非公開になる可能性がある。
- 特定の航空会社に依存すると、その航空会社の経営方針が空港運営に大きく影響を及ぼす可能性がある。
- 空港運営会社の経営陣や株主が変更されると、これまでの空港戦略や方向性が大きく転換される可能性がある。